

全酪連会報 1

2023 JAN No.688

新年の御挨拶

代表理事会長 隈部 洋

農林水産省 畜産局長 渡邊 洋一

酪農とのかけはし／朝倉2号さん

監査室だより／ガバナンスの強化について

酪農業に対する理解醸成活動報告②

令和4年度 全酪連会員職員研修会 (後編)

日本酪農見て歩紀／有限会社鈴木牧場 (愛知県田原市)

酪農トピックス／全国農協乳業協会「令和4年度営業向け交渉研修」の開催 (酪農部) ほか

酪政連活動報告



I  MILK ACTION
2022 WINTER

2022.11/16 - 2023.1/31

→ <http://milk-action.org/>



全国酪農業協同組合連合会

Z
E
M
R
A
K
U
R
E
N

新年のご挨拶

全国酪農業協同組合連合会 代表理事会長

隈部 洋



新年明けましておめでとうございます。

全国の酪農生産者・会員の皆様及び関係者の皆様におかれましては、日頃より弊会事業に特段のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

令和5年の年頭に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

さて昨年一年を振り返りますと、国内での新型コロナウイルスへの感染者が確認されてから3年が経過しましたが、依然として収束の道筋は見えずにいます。またロシアによるウクライナ侵攻により資源価格が高騰し、さらに約32年ぶりの

歴史的な円安も加わり、配合飼料を始め粗飼料、肥料、燃料などあらゆる生産資材価格が高値となりました。

このような情勢の影響を受け酪農経営は未曾有の苦境に陥っており、また、牛乳・乳製品の需要減退による生乳需給の緩和によって生産抑制が進められましたが、先行きが見通せない状況から廃業を決断せざるを得ない酪農生産者の声も多く聞かれるようになり、想定していた以上に生乳生産が減少しています。生産コストの上昇分が乳価に反映されなければ酪農生産者としてはモチベーションの維持は難しく、直面

する酪農経営の厳しさと共に、将来の生乳生産基盤を維持できるのか、危惧しているところでもあります。

魅力的な酪農を築くためには、酪農家が納得できる乳価となることは重要ではありますが、急激かつ大幅に生産コストが高騰している局面においては、補給金の特別枠の設置などが緊急的な支援が必要であり、食料安保の観点から農業界全体への補助金による支援や、酪農所得を支えられるようなセーフティネットの構築など恒久的な仕組みづくりも必要不可欠であります。これからも関係団体とともに、政府・国会に要請していきたいと思えます。さらに、酪農経営に直結する生乳需給制度の面から見直しを図る時期にきていると考えています。酪農乳業全体が一体とならなければ十分な需給調整機能を発揮することはできません。政府には改正畜安法施行後の検証を行っていただきたいと思っています。

また、将来的な酪農乳業を考えた場合、今後も牛乳・乳製品の消費拡大を図ることが必要であります。牛乳・乳製品の店頭価格が上がったことによる消費の動向には注視しながらも、消費者への理解醸成活動がますます重要になってきます。日本の酪農生産は、日本国民の栄養源としての役割を担っているばかりでなく、飼料作物などの生産・利用を通じた資源循環型農業の基幹として、国土保全などの役割をも担っております。さらには地域経済の振興にも貢献しており、酪農業

が衰退していいことは一つもありません。全酪連はこれまでも全国酪農青年女性会議と共に地道な取り組みを全国で行ってきましたが、乳価への理解だけでなく、日本で酪農生産を継続する意義も伝えていきたいと考えております。

こうした酪農の危機的状況への対処が、酪農専門農協の全酪連である全酪連に課せられた使命であると考えています。

本年は、全酪連の3ヶ年の事業方針となる第十二次中期事業計画の最終となる総括の年でございます。全国の酪農生産者・会員の皆様のご協力と行政・関係団体のご指導ご支援を賜りながら、搾乳用後継牛確保のための販売預託事業やDMS（酪農家経営管理支援）システムを活用した酪農経営の生産性向上の支援、（一社）全酪アカデミーの活動を通じた後継者確保・育成の支援などの諸施策を引き続き遂行していくとともに、現在過剰となっており乳製品在庫の削減に向け、引き続き取り組んでまいります。

明けない夜はありません。酪農生産者の皆様に寄り添いながら、現在の困難な状況に対応するのはもちろんのこと、その先のことも見据え、持続的な酪農生産基盤の構築に尽力する所存であります。

最後になりますが、全国の酪農生産者・会員役職員の皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

令和5年 年頭所感

農林水産省 畜産局長

渡邊 洋一



明けましておめでとございます。
令和5年を迎えるにあたり、一

言、御挨拶を申し上げます。
皆様におかれましては、平素か

ら酪農乳業行政の推進に御理解と
御協力を賜り、厚く御礼申し上げ
ます。

さて、昨年は、我が国の酪農に
とって大変厳しい年となりました。
これまで取り組んできた生産
基盤強化対策により、我が国の生
乳生産量は平成30年には増加に転

じ、令和3年も4年連続で増加す
るなど、近年回復基調となってお
りました。

そのような中、令和元年度以
降、新型コロナウイルスの感染拡大による
需要の減少に加え、ロシアによる
ウクライナ侵略や円安の進行等に
より、我が国の社会経済は多大な
影響を受けており、酪農において
も、飼料穀物の国際相場の上昇等
のほか、燃料、肥料など各種生産
資材の高騰など、生産コストが上
昇し、経営収支が悪化するといっ

た大変厳しい経営環境にあると認
識しております。

こうした飼料コストの高騰に対
応するため、農林水産省として
は、令和3年度の補正予算と昨年
4月の総合緊急対策によって、合
計665億円を配合飼料価格安
定制度における異常補填基金に積
み増しました。また、昨年9月に
は、予備費を活用し、配合飼料価
格安定制度の外で、生産コストの
削減や飼料自給率の向上に取り組
む生産者に対し、配合飼料価格の

高止まりに対応するための緊急
対策や、購入粗飼料等の価格高
騰の影響を受ける酪農経営への
緊急対策を併せて504億円を
措置しました。さらに、令和4年
度の第2次補正予算では、異常補
填基金への更なる積み増しとして
103億円を措置し、飼料価格
高騰対策を切れ目無く実施してま
いりました。

また、酪農乳業界が今後も発展
していくためには、消費者の御理
解をいただきながら、生産コスト

の上昇を適切に価格に反映していただくことが重要です。そのためには、まず、生乳の需給ギャップを改善するとともに、脱脂粉乳在庫を低減することが重要です。

農林水産省としては、生乳の需給ギャップを改善するため、令和4年度第2次補正予算において、生産者団体等が実施する経産牛の早期リタイアによる抑制的な生産の取組を支援する「酪農経営改善緊急支援事業」や乳製品在庫を長期保管する取組に対する「乳製品長期保管事業」を措置するとともに、国産チーズの競争力強化対策や輸出拡大に向けた支援策を措置したところです。

くわえて、令和5年度の畜産物価格等については、食料・農業・農村審議会畜産部会の諮問・答申を経て、昨年12月14日に決定し、加工原料乳生産者補給金を43銭引き上げ8・69円/kg、集送乳調整金を6銭引き上げ2・65円/kg、合計で49銭引き上げ11・34円/kgとし、

総交付対象数量は330万tといたしました。

あわせて、畜産物関連対策については、酪農における生産コストの上昇を価格への反映や経営体質強化によって克服していくための環境整備として、新たに「酪農緊急パワーアップ事業」を措置し、①生産者団体や乳業メーカーが協調して行う脱脂粉乳在庫の削減、②乳製品のECサイトなどへの販売形態の変更、消費拡大のプロモーション、③早期乾乳の推進、④搾乳ロボットなど先進的機器の導入と一体的な施設整備などを支援することといたしました。

特に、牛乳乳製品の消費拡大については、年末年始や年度末の処理不可能乳の発生回避や生乳需給ギャップの改善に向けて重要な取組であることから、昨年6月に、(一社)Jミルクと共同で、「牛乳でスマイルプロジェクト」を立ち上げ、官民の240を超える幅

広い参加者が共通ロゴマークの下、販売・PR活動等を行い、消費拡大に取り組んでいます。昨年末からは、乳業メーカーによるヨーグルトなどの増量キャンペーンや、食品メーカーによる生乳を豊富に使った商品の新発売、牛乳乳製品を買うと景品が当たるキャンペーンなど、77の参加企業が138の取組を展開しています。

引き続き、農林水産省においても業界の皆様とともにこれらの取組を適切に実施し、今後の需給の安定に努めてまいります。

国内の食のマーケットの減少が見込まれる中、国産牛乳乳製品の需要の拡大を図るという点では、中長期的な成長が期待される海外市場を積極的に開拓することが極めて重要な課題です。

皆様におかれましては、昨年にも増して、酪農乳業行政への格別の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

このため、政府においては、農林水産物・食品について、2025年までに2兆円、2030年までに5兆円の輸出額目標を設定しており、重点品目に位置づ

けられる牛乳乳製品については2030年目標を720億円と設定しています。牛乳乳製品の輸出額は堅調に推移しており、令和3年には244億円と過去最高額を更新し、令和4年についても、10月時点で昨年を上回る253億円となりました。農林水産省では輸出目標の達成に向け、これまでのオールジャパンでのプロモーション等の取組に加え、生産者・乳業メーカー・輸出事業者が連携した「コンソーシアム」によるプロモーションの実施、輸出先国が求める水準を満たす乳業施設の整備への支援等を通じて、更なる輸出拡大を推進してまいります。

酪農との かけはし



第41回 愛しの牛乳パック 管理人 朝倉2号さん

愛する牛乳と 牛乳パックを皆さまへ

朝倉2号さん



ご紹介するのは、福岡県在住、県職員として畜産関係の仕事に従事し個人ブログ『愛しの牛乳パック』で牛乳関係の情報発信をしている朝倉2号さんです。全国各地の牛乳パックを紹介し、牛乳トピックスや牛乳レシピを毎日更新しています。



▲ 磯沼ミルクファームにて

今年6月に開催された九州生乳販売農業協同組合連合会主催の理解醸成活動「ハッピーミルクフェスタ2022」の記事に興味を持ち、九州生乳販連にご紹介頂きました。今回は牛乳の魅力を精力的に発信する朝倉2号さんの活動に触れていきます。



▲ 牛乳・バターとあんこの相性がばっちり！

牛乳パックへの興味

1999年に収集を始めた牛乳パックコレクションは3,000本以上に上ります。以前、朝倉2号さんは酪農経営を良くするため福岡県朝倉市や久留米市を中心に普及指導員として畜産酪農の技術普及や乳質改善に携わり、搾乳方法や飼料給与の見直しを行うなど、生産技術については精通していました。一方で流通や販売に関しては良く分からず、どのような牛乳が消費者に求められているのか気になっていた時、「製品を体現しているのが牛乳パックではないか」と思い当たり収集を始めたそうです。



▲ 福岡牛乳と中洲



▲ 東京牛乳とスカイツリー

『愛しの牛乳パック』開始

牛乳パック収集に精を出していた朝倉2号さんが『愛しの牛乳パック』を開始したのは2005年10月です。

その頃、酪農業界に何が起ったのか？

飲用牛乳の消費低迷が続き脱脂粉乳・バターともに過剰在庫となり翌年には生乳廃棄が発生し乳価も値下げとなった。平成の酪農危機の入口でした。

朝倉2号さんは、「苦しい酪農家のために何かしたい」という使命感



▲ 福岡民放ラジオで牛乳の魅力を発信

から、仲間と農業まつりで牛乳パック工作などの牛乳消費拡大活動を

始めました。そんな折、「集めている牛乳パックを利用して、もっと牛乳を飲んでもらう事は出来ないだろうか？」と考えて、ブログに

よる情報発信を開始したそうです。「100%生乳使用の製品のみ紹介しています。」というこだわりにも、

少しでも乳価が上がる様にとの思いがにじみます。

やりがいと苦勞

今年でブログを始めて17年が経過。基本ご自身で牛乳を購入してい



▲ 朝倉2号さんの助言で福岡牛乳をデザイン

ますが、各地の知人やブログを見ている方が牛乳パックを送って下さる

そうで、「皆さまの反応が有難いし、活動を通じた人脈の広がりは嬉しいですね。」との事です。

しかし、毎日更新し続けるのは大変で「入手できるパックも有限なので苦勞するのはネタ切れ。」なので、あ

んこと牛乳は合う派。ネタを加えるなど、発信情報の幅を徐々に広げています。「コロナ禍による行動制限の時は県外の酪農家を訪ねることもできず、本当に苦しんだ。」と本音もポロリ。

畜産関係の職業柄、少しでも酪農家の経営にプラスになりたいとの思いが日々ブログを更新するモチベーションとなつているそうです。

消費者と酪農を繋げたい

朝倉2号さんは「SDGsが叫ばれる前から酪農家は、稲わら利用や堆肥還元、機械のオペレーターになることで地域農業の維持発展に、さらに人が利用できない食品残渣を有効に活用することで、日本社会の持続的な発展に貢献しています。」「美味しい牛乳を消費者に届けるだけではない「酪農・牛乳の価値」を広く伝えて行きたい。」と話されました。

基本は農家のため

農家が良くなるのが活動のスタート。牛乳だけにはとどまらず、福岡県産品普及のため、福岡県のかしわ文化や、緑茶に合う和菓子」をブログ「朝倉2号の楽しき日々」で紹介されています。皆さま、チェックしてみてください。

愛しの牛乳パック

➔ <http://blog.livedoor.jp/ftmember/>



朝倉2号の楽しき日々

➔ <https://chspmom2.yoka-yoka.jp/>



全国の酪農家・乳業者に一言!

牛乳、美味しいじゃないですか。酪農家の皆さま、厳しい環境が続きますが、美味しい牛乳を消費者に届けて下さい。乳業者の皆さま、酪農家が生産した生乳に価値を付けて消費者に届けて下さい。牛乳って基本は地産地消だと思います。売り場に個性あふれる地域の牛乳があると楽しいし、いつまでもそんな牛乳を飲めると嬉しいです。

ガバナンスの強化について

1 「ガバナンス」について

(1) 「ガバナンス」とは

ガバナンスとは、統治や管理という意味です。ビジネスにおいては、コーポレートガバナンスと呼ばれ、企業経営において公正な判断・運営がなされるよう、管理・統制する仕組みを指します。

(2) 「ガバナンス」の強化が注視された背景

ガバナンスの強化が注視されるようになったのは、2000年頃複数の大企業において不祥事が相次いだことが発端です。情報改ざんや粉飾決算などの不祥事が多発したことで、企業の管理体制へ批判や注目が集まりました。

企業に所属している人ならば、「ガバナンス」という言葉を一度は聞いたことがあると思います。これは、企業の不祥事に対する社会の目が年々厳しくなる昨今、企業の不祥事リスクへの対策として、ガバナンスの強化がどの企業にも求められているためです。

そこで、今回は、ガバナンスの意味や、ガバナンスが注目される背景、有効に機能している場合のメリット、ガバナンス強化に向けて具体的に取り組むべき事項等について解説します。

会員の皆様におかれましては、ガバナンスの整備に携わっている方もいらっしゃると思いますので、参考になれば幸いです。

(3) 「ガバナンス」が機能している場合のメリット

ガバナンスが有効に機能することで、得られる主なメリットは、「企業価値の向上」と「健全な経営の実現」の2つです。

ガバナンスの強化に取り組むことで、対外的な企業評価が高まり、中長期的な「企業価値の向上」につながります。そして、企業の信頼性が高まることで、株主やステークホルダーへの利益が守られます。

また、ガバナンスが有効に機能していると、改ざんや隠蔽といった不祥事が起きにくく、健全な経営体制の実現にも有効です。

(4) 「ガバナンス」が機能していない場合のデメリット

ガバナンスが有効に機能していないと、不正や不祥事により、社会的信用を失うリスクが高まります。企業の管理体制が十分に届いていないため、不正や不祥事が起きた時に、すぐに対処することができません。

その結果、社会的な信用を失ってしまい、企業にとって膨大な不利益

をもたらすこととなります。

また、ガバナンスが有効に機能していないと、経営の健全性や透明性が確保できず、業務効率に問題を抱える可能性があります。

2 「ガバナンスの強化」にむけて

ガバナンスを強化していく上で、具体的に取り組むべき主な事項は下記(1)～(3)の3つです。

(1) 内部統制の構築・強化

内部統制とは、企業の目的や目標を達成するために必要なルール・仕組みを整備して、適切に運用できるようにすることです。

なお、内部統制を強化していく方法として、企業内のリスクの洗い出しや対応策の整備などがあります。

また、内部統制を強化していく上で特に重要なことは、内部統制の方針を決める経営者と、方針を制度（規程等）に落とし込む管理部門の連携です。

(2) 内部（自主）監査体制の整備

内部（自主）監査の役割は、企業内部外部にかかわらず、あらゆるリスクの低減と不祥事の防止、業務の有効性や効率性を高めることにあります。

したがって、内部（自主）監査体制を整備することにより、日常の企業活動が組織として決定したルール通りに運用されているか、企業に何らのリスクをもたらす行為が行なわれていないか等のチェック機能が働きます。

なお、内部管理体制（内部統制）をいくら強化しても、自部署にて全ての事項を完璧に管理することは非常に困難です。

このことから、内部（自主）監査は、管理体制を補完する目的（人間の体で例えると年に1回の健康診断の意味合い）でも整備が必要と言えます。

(3) コンプライアンスの徹底

コンプライアンスとは、「法令遵守」と訳されることが多いです。

しかし、企業の実務上において、コンプライアンスが対象とするのは、法令以外の社会的ルールやモラルまで広く内包しています。

なお、企業のコンプライアンス違反行為の多くは、報道でしばしば「不祥事」として伝えられます。

不祥事のイメージが付いた企業からは、顧客が離れやすくなり、ゆくゆくは経営が悪化して、廃業・倒産にまで追い込まれるおそれがあります。

よって、企業のコンプライアンスを維持することは、企業の存立にも直接関わるほどの大切な要素です。

企業のコンプライアンス遵守の意識を強化するためには、まず、社内でするべき最低限のルールについて、全ての従業員に周知徹底することが重要です。

この従業員への社内ルールの周知徹底に加え、組織として、コンプライアンス委員会を設置し、監視体制を整えることも社内コンプライアンスの強化に効果的です。

3 まとめ

内部統制の強化や内部（自主）監査体制の構築など、ガバナンス体制を整える（強化する）ことにより、企業の不祥事や不正が起きるリスクを最小限に抑え、業務効率化や、生産性向上が実現できると考えます。

企業が健全な経営を実現し、持続的に成長していく上で、ガバナンスの重要性は年々高まっています。

酪農業に対する 理解醸成活動報告 2



YouTubeで
動画を掲載
しております。
是非ご覧ください。



仙台支所

●催事名：やぶきフロンティア祭り
●場 所：矢吹文化センター
（福島県西白河郡矢吹町）
開催日：令和4年11月6日(日)
参加者：福島県酪農青年研究連盟 27名



●場 所：郡山駅、福島駅
開催日：令和4年11月3日(木)・19日(土)
参加者：福島県酪農青年研究連盟
通行中の消費者の皆様ツール・チラシの配布と合わせて牛乳・カフェオレ(200ml)の配布を行いながら、酪農情勢の窮状を訴えました。牛乳の消費拡大についても呼びかけ、牛乳・乳製品の値上げにご理解いただくことができました。



▲ 郡山駅前



▲ 郡山駅前



▲ 福島駅前



▲ 福島駅前

●場 所：岩手県内福祉施設、児童館、こども食堂など
開催日：令和4年10月12日(水)・13日(木)・14日(金)・18日(火)・25日(火)・28日(金)・11月8日(火)・15日(火)・25日(金)
参加者：岩中酪農青年女性会議 9名
昨年に引き続きツールやチラシを配布。「子供達も楽しみにしていた。」「嬉しそうに牛乳を飲んでた。」「また来年も同じ活動をしてほしい」等のご意見をいただき、牛乳の普及に貢献できました。



●場 所：雫秋保柴田牧場
KOMOREBI gelato
(宮城県仙台市)
開催日：令和4年10月14日(金)～16日(日)
参加者：宮酪青年婦人連絡協議会
来店した方に保冷バッグやチラシを配布し、配布したチラシを読んだ方からは「頑張ってください」と声をかけられるなど理解が示され、消費拡大につながるものと感じました。
※「KOMOREBI gelato」は近くに秋保温泉、秋保大滝などの観光地にあり家族連れなど多くの来店者があります。(2022年7月8日にOPEN)



●場 所：東邦銀行仙台支店
(宮城県仙台市)
開催日：令和4年12月14日(水)
参加者：全酪連仙台支所
全酪連仙台支所のある東邦ビルにおいて、同ビル1階の東邦銀行仙台支店様にツール・チラシをお渡しし、行員の皆さんに牛乳をたくさん飲んでいただけるよう協力をお願いしました。



▲ 左：仙台支店・仙台南支店 穂積副支店長様
右：仙台支所指導組織課職員

- 催事名：畜産女性の会サンカラット出前授業
- 主催：（一社）三重県畜産協会
- 場所：三重県内の高等学校

開催日：令和4年10月11日(火)・24日(月)
 参加者：酪農家及び両校生徒 約180名
 出席した生徒に向け、「皆さんの健康のためと酪農家を支えるために食事に乳製品を取り入れて欲しい」と話をしました。

- 催事名：牧場見学
- 主催：保育園・幼稚園・小学校など
- 場所：三重県内の牧場

開催日：令和4年10月24日(月)・31日(月)・11月22日(火)
 参加者：酪農家他、園児や生徒
 保育士や先生方へチラシや保冷バッグを渡し酪農情勢を説明しました。牛乳・乳製品をたくさん子供たちに飲んで（食べて）貰えるようお願いをしました。見学の子供たちからは牛や酪農の仕事に対するたくさんの質問が上がり興味をもって貰うことができました。



- 催事名：令和4年度GALAMAいきいきネットワーク東濃ブロック研修会
- 主催：GALAMAいきいきネットワーク東濃ブロック
- 場所：恵那文化センター調理室

開催日：令和4年11月10日(休)
 参加者：美濃酪連イベント参加者 36名
 当日は、理解醸成活動と合わせて牛乳料理の紹介（カッターチーズ作り・乳清を使用したカレー作り）をしました。コロナウイルスの関係もあり試食程度でしたが、牛乳を使っていただくことでいつもとは違った料理で、改めて、牛乳の使い方に驚いていました。酪農家の方からのお話では牛乳の普及、酪農の情勢を知っていただけました。このような機会を増やしていくことができれば今後の牛乳の普及に繋がると思います。



- 催事名：岡崎城下家康公秋まつり
- 場所：乙川河川緑地右岸（愛知県岡崎市）

開催日：令和4年11月5日(土)
 参加者：酪農家 4名
 来場者1人1人に声をかけ、酪農の現状を理解していただくと共に乳製品の消費拡大を訴えながらチラシと保冷バッグをお渡ししました。「毎日欠かさず飲んでます。」などたくさんの方に応援をいただきました。



- 催事名：“さくら”卒業式
- 場所：小学校（愛知県）

開催日：令和4年12月2日(金)
 参加者：酪農家・職員他 5名
 小学校に預けていた子牛“さくら”の卒業式でした。
 頑張って子牛を育てた生徒の皆さんへ「牛乳を飲んでください。」とチラシやツールをお渡ししました。きっと近隣のスーパーで保冷バッグを持った親御さんをたくさん見かけるようになるでしょう！



- 催事名：ふれあい講座
- 場所：保育園（愛知県）

開催日：令和4年12月8日(土)
 参加者：酪農家・職員他 5名
 哺乳やブラッシング、搾乳模擬体験など、保育園児に子牛とふれあってもらうイベントを通して、園児やご家族など若い世代の消費者層へ理解醸成活動を行いました。



全酪連会役員職員 研修会 後編

今月号では全酪連企画管理部総合企画室 丹戸靖室長による「欧州酪農事情〜欧州の酪農家は経営の厳しさに対し、どのように向き合っているのか?」の講演についてご報告をいたします。

日本の酪農は前代未聞の厳しさと

なっています。一方、欧州の状況は、乳価は2年前と比べると2倍に上がっているとの報道も見られました。恵まれている」と思ってしまうですが、果たしてどうなのか?日本と欧州を比較することでそれぞれの良さ、厳しさ、そして、日本はどのように取り組んでいけばよいか、というヒントになるような報告ができればと考えています。

1 酪農は「公共」か? 個人ビジネスか?

日欧の収支構造から考える

日本と欧州の酪農の収支構造を見ていくと同じ酪農だがまったく違う事業の様に感じるところがあります。この点を突き詰めていくと、「公共」なのか、「個人ビジネス」なのか

という視点に行きつきます。

酪農概要

日本の国土の約65%のイギリスと九州と同じくらいの面積と言われるオランダは、ともに森林面積が国土の1割前後で(日本の森林面積は約65%)、フラットな土地が続いていて放牧などに適した国であり、古くから酪農が盛んです。

酪農状況を比較すると、酪農家戸数は3か国ともほぼ同程度ですが、経産牛頭数はそれぞれ日本の倍の頭数があります。結果、牛の頭数に比例して生乳生産量も倍の数量です。個体乳量は、欧州のほとんどの酪農家が放牧を取り入れていることからその分乳量は低くなっています。配合の給与量

は日本より少なめです。

経営規模は、イギリスでは10頭未満の酪農家が3分の1を占め、また200頭以上の規模の酪農家も非常に多く2極化しています。一方、オランダは100頭〜200頭規模の農家に集中しており、最大でも500頭くらいです。オランダでは、経産牛1頭あたり最低でも1.3haの圃場を持つていないといけないと決められているので、狭い農地の中で規模拡大ができず、ギガファームは存在しません。また土地代も高く、規模拡大をしたくても出来ないという状況です。

欧州で絞られる生乳は、52・8%がチーズ、15・1%が粉類、飲用向けはわずか7・3%で、加工される乳が多いため生乳の鮮度が製品の差に影響しないのか、集乳回数が2〜3日に1度というのも特徴的です。

欧州の牛舎はほとんどがフリーストールです。繋ぎ牛舎を新規で作ることはできません。また、オランダでは約25%の酪農家がロボット搾乳を導入しており、日本と比べると非常に高い割合となっています。

生乳生産量と経産牛頭数比較

オランダの生乳生産量と経産牛頭

数を見てみると、2016年をピークに、生乳生産量も経産牛頭数も低下しています。これは、生乳クォータ制度によって農家ごとに絞れる乳量が決められていたものが2015年に撤廃され、生乳生産が増加、その結果糞尿も増え、土壌中のリン酸塩が問題となり、国が強制的に2年間で経産牛13万頭、育成牛15万頭を淘汰したということによるものです。欧州ではどの国も右肩下がりで、これ以上生乳生産量を増やす必要があるのかという議論にもなっています。(図1参照)

収支構造比較

イギリスと日本の収支構造をみると大きく分けて3つのことがわかります。

(1) 収支比率は同じ (図2参照)

イギリスの1頭あたりの所得は日本の約4割程度です。しかし、飼養規模からするとイギリスは日本の約4倍のため、牧場あたりの所得はイギリスの方が多いと思われます。

(2) イギリスの家族所得のうち7割は

直接所得補償による (図3参照)

イギリスと日本の収入の内容で大きく異なる点が雑収入です。日

図1

生乳生産量と経産牛頭数 (オランダ)



出典「Dutch dairy figures 2021」 Statistics Netherlands (CBS)

図2

日欧収支比較(経産牛1頭当たり)

概況・所得

- 収入と費用の割合は同じ!
- 1頭あたり所得は日本の4割
- 頭数は3.6倍:牧場あたり所得は多い

項目			比率
経産牛頭数	54頭	197頭	3.60
個体乳量	9,015kg	8,464kg	0.93
乳価	118円/kg	58円/kg	0.49
売上・雑収入	1,380,445円	584,769円	0.42
費用	1,259,819円	531,243円	0.42
家族所得	120,626円	53,525円	0.44

1)日本の数値は2021年DMS平均値、イギリスは2021年AHDB:R500AVGより
2)1ポンド167円で換算
※以下スライド 同上

図3

日欧収支比較(経産牛1頭当たり)

売上・収入

- 副産物収入が少ない!
- 所得の約7割は所得補償

項目			比率
生乳売上高	1,063,809円	492,189円	0.46
肉用子牛売上高	139,958円	46,726円	0.27
廃用牛売上高	30,252円		
その他売上高	19,514円	6,102円	0.31
雑収入	126,912円	39,752円	0.31
合計	1,380,445円	584,769円	0.42

1)イギリスの雑収入は「直接所得補償」。環境支払=約6,000円、基礎支払=約34,000円

本の雑収入は購買や販売の奨励金、安定基金の収入や受託作業の収入などですが、イギリスの雑収入は政府からの直接所得補償です。政策が求める酪農経営を行えば所得補償が受けられるというのは、国民の理解もあり「公共性」が高い職業ということがわかります。ただし、酪農家に求められる環境面の条件が年々厳しくなってきたり、「存続問題」となっている面もあります。

(3)設備投資が少ない経営(図4参照)
飼料費は、イギリスでは日本の約3割程度しかかかっています。また、コントラクターが充実しているイギリスでは、圃場関連の機械を買う必要が少なく、かかる修繕費や償却費も少額です。日本のクラスター事業のような資産購入に対する補助金が無いので、酪農家は投資に対して「慎重」です。また、地震が少ないので、建築基準が低く、建物の建設費は日本の約半分で済みます。

ここで、労働時間当たりの乳量を比較しました。(図5参照)。
日本は労働時間1時間当たりの乳量が92kgであるのに対し、オランダは4倍の382kg、イギリスは3倍近い253kgですから、労働生産性が大きく違うことがわかり、収支以上に日本の厳しさを表しているところだと思われま。これだけの差が生まれる原因は、欧州は民間コントラクターが充実しているところにあると考えます。日本にもコントラクターはありますが、

多くの場合は酪農家自身が出役しているため共同作業に近く、労働力を減らすまでには至っていません。
もう一つが酪農家の作業が非常に単純化されており、地域での作業も平準化が徹底されているためヘルパーが入りやすく、一人の従業員を複数の牧場で雇うということが多くみられます。地域で同じ作業体系のため、ヘルパーや従業員が定着しやすいという環境があるというのが大きな違いだと思います。

2

欧州の酪農家は経営の厳しさに対し、どのように向き合っているのか？

こういった収支の特徴がある日欧の酪農ですが、それぞれの国がどのような厳しさがあり、それにどのような向き合っているかを見ていきましょう。

日本では、需給緩和による乳価低迷や、資材高騰で酪農経営は最悪の一途をたどり、輸入飼料への依存が高いことから外部経済の影響を受けやすく、また、慢性的な労働力不足や後継者不足があります。日本の場

合は、労働生産性が非常に低いので、資金繰りと労働力に苦慮しているということとなります。

一方、イギリスでは、現在、飼料として使われている大豆はほとんどブラジル産ですが、そのブラジルの森林が大豆生産拡大の影響で減っていることを受け、消費者からの要請で小売り大手が森林破壊の撲滅運動を展開しています。2025年以降は、森林破壊が無いと証明された地域からの大豆しか使えないこととなりますが、代替えとしてDDGS(ト

ウモロコシ蒸留粕)などの利用が進んでいます。さらに、アニマルウェルフェアやCO2削減の要求も消費者側から強いものがあります。

また、オランダでは、窒素削減計画が進められ、2019年比で2030年までに窒素排出を半減させる政策がとられ、最大70%の窒素削減を求められており、「経営問題」ではなく「存続問題」に発展し国外への牧場移転をする人も増えている状況にあります。これを見ると、欧州の場合は、体

3

最近始めた、新たな「チャレンジ」は？

欧州の酪農家はどのような対応を最近始めているのかを見ていきましょう。

越冬飼料として作付けしている飼料用ビート大根の作付けを増やしています。収穫したビート大根をそのままTMRミキサーに入れて粉碎し、糖分の補給に使用しています。また、廃棄された野菜、ソーダビーン(小麦の一種)の買い付け量を増やしています。圃場の耐性を高めるため、牧草、クローバー類を混播する農家が非常に増えていました。

日本の酪農家よりさらに積極的にエコフィードや雑穀類、廃棄野菜を使用している印象がありました。それを安定して使うためにはどうすればいいのか、ということに非常に真剣に考えているなど感じたのが、今欧州で広

図4 日欧収支比較(経産牛1頭当たり)

費用

項目	日本	イギリス	比率
雇人費	43,791円	57,710円	1.32
飼料費	610,960円	172,083円	0.28
診療衛生費	34,593円	20,922円	0.60
動力光熱費	57,090円	31,034円	0.54
共済掛金	35,497円	4,359円	0.12
修繕費	44,827円	37,485円	0.84
支払利息	2,704円	16,389円	6.06
減価償却費	183,563円	40,100円	0.22
その他経費	246,794円	151,161円	0.61
合計	1,259,819円	531,243円	0.42

■政策金利差で支払利息が多い
■飼料費は日本の約3割

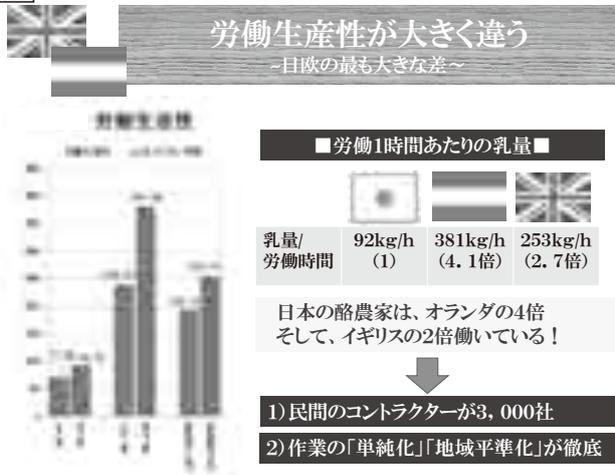
日欧収支比較(経産牛1頭当たり)

飼料関連

項目	日本	イギリス	比率
種苗費	4,843円	5,230円	1.08
肥料費	7,867円	17,261円	2.19
農薬費	5,847円	3,487円	0.60
地代賃借料	16,110円	16,563円	1.03
作業委託費	12,927円	47,597円	3.68
減価償却費	183,563円	40,100円	0.22

■飼養管理は圃場管理
■圃場作業は全てコントラクターへ
■だから、減価償却費が少ない

図5





がりつつあるマルチユサイレージ(多層サイレージ)です。刈り取り播手や草種ごとに下から層にしてサイレージを1年間かけて作り、翌年の飼料とします。品質が不安定な飼料を通年安定して使用するためで、多層サイレージに対応したパンカーサイロも普及しつつあります。作業が長期化するので、コントラクターが不可欠です。(図6参照)

自給は飼料だけにとどまらず、エネルギーにも目を向けています。動カ光熱費の高騰は今後も続くこと



が考えられることから、エネルギーの自給率を高めていく必要があります。一般的に、物に対する補助金はないのですが、ソーラー発電や風力発電などの自家発電に関するものには補助金が出るので、取り組む農家が増えています。(図7参照)

また、副産物収入源として肉用種の種付けを行う農家が増えてきています。販売単価を上げるため、ホルスタインの4倍の価格で売れる「ベルジャンブルー」(ベルギー産の牛)の種付けを増やしています。「ベルジャ

ンブルー」は子牛が非常に大きくなります。和牛と違って、おそらく経産牛にしか種付けはできませんし、難産のリスクもあり、4倍の値の子牛をとるためにどれだけ分娩時のリスクを負えるかというのは日本と違ったチャレンジだと思います。

日本では、今後の対応として自給飼料やエコフィードといわれていますが、そう簡単に急な対応はできません。着実に有利な資金繰りをするしかないと思われます。しかし、非常に残念なのが資金繰りのために育成牛を売りに出す方が増えていると思います。今の需給を見ても1〜1年半先には生乳は足りなくなるとみえています。しっかりと後継牛を残しておいていただきたいと思っています。短期的にも中長期的にもいえる事ですが、基本的には牛を健康に飼うことが有効だと思います。

欧州酪農に接して経営指標の目標はなにかと聞くと、単年の成績ではなく生涯生産乳量が一番大切だという人が多かったです。生涯乳量10万kgを超える牛を持つことを誇りとしています。

日本の酪農経営の統計を見ていながら、酪農所得に一番比例するものはなにかというと、乳飼比ではなく更

YouTubeで動画を掲載しております。是非ご覧ください。
<https://youtube.com/g42fwujxQPA>

も取り入れた目標設定を。

「生涯乳量」「更新率」「死廃率」

(3)酪農経営の持続性に沿った「目標の設定」
年間の個体乳量、今年の所得だけでは、瞬間風速の計測にしかない。

「労働生産性」を支える体制が必要
所得以上に労働生産性の差が大きい。「作業の単純化・地域平準化」をへー
スにした体制づくりはできないか?

(2)酪農経営の持続性には、
公共は補助金による所得補償を得られるが、政策の拘束力が強まる。とはいえ、個人ビジネスに任せていては、経営が持たない。

(1)「公共」と「ビジネス」のバランス
5年後の酪農経営のための…
まとめ

日本酪農 見と歩紀

No. 355

有限会社鈴木牧場
愛知県田原市

経験や学びが 理想の酪農へ繋がる



▲鈴木雅隆さんと共進会出品牛

地域の紹介

今回訪問させていただいた有限会社鈴木牧場がある愛知県田原市は、愛知県の南端部に位置しており渥美半島の大部分を占める市です。人口は約5万8千人であり、渥美半島は3方を太平洋、伊勢湾、三河湾の3つの海に囲まれ、新鮮な海の幸や温暖な気候に恵まれた自然環境で育つ農産物（野菜、果物、花、畜産物）は全国有数の産出額を誇ります。

有限会社鈴木牧場の所属する愛知県酪農農業協同組合（鈴木康弘代表理事組合長）は生乳出荷戸数227戸（令和4年3月31日現在）となっており、その中で地元愛知県酪渥美支所の酪農家戸数は36戸（令和4年3月31日現在）です。愛知県酪渥美支所の管内では、ホルスタインの種付け率が高く、北海道の



▲太平洋ロングビーチ

預託事業を活用しながら積極的に後継牛を確保する考えの方が多く感じています。また従業員や実習生が働いている牧場も多く、効率的に生乳を生産するために3回搾乳に取り組んでいる生産者も多くおり、若手の後継者も多く、生乳生産に力を入れている地域です。



愛知県田原市



有限会社鈴木牧場の沿革

鈴木雅隆さんが3代目の牧場で、雅隆さんの祖父が乳牛を15、6頭導入し、酪農業を開始されました。当時は実家の近くの牛舎で手搾りをされていたそうです。その後、牛舎を増築し増頭。さらに昭和46年には現在の場所につきなぎ牛舎を建設。そして、平成6年に現在のフリーストール牛舎が完成し、以降、乾乳舎など施設を拡充されて現在に至ります。

有限会社鈴木牧場の概要

飼養頭数は成牛200頭（搾乳牛



▲ 育成牛舎

165頭、乾乳牛35頭）、育成牛50頭（6か月齢まで飼養し、以降、北海道に預託）、ホルオス、F1などのスモールが25頭（約2か月齢で、

あいち家畜市場に出荷）です。直近の生乳生産量は日量6,000kg弱、搾乳牛1頭当たりの平均は35〜37kgです。施設はフリーストール牛舎、8頭ダブルパーラー、乾乳舎、哺育舎（哺乳ロボット）、育成舎、堆肥舎、飼料倉庫があり、飼料はTMRミキサーにて給与しています。

家族労働力はご両親と本人で、その他に日本人従業員が8名（パート含む）います。

現在、経営主は父親の鈴木康弘氏



▲ 搾乳牛舎



▲ 旧牛舎（昭和46年）を改造した育成舎

ですが、愛知県酪農農業協同組合の代表理事組合長、東海酪農協同組合連合会会長など様々な要職に就かれており、牧場の運営は後継者である雅隆さんが中心となって行っています。

就農までの経緯

地元の農業高校を卒業後、5年で戻ってくる計画で、父親も実習していた北海道の牧場（ブリーダー）で2年半実習されました。実習先では搾乳、飼料給与を含めた飼養管理全般、草地管理などを行ったそうです。その後、その実習先の紹介でカナダ

に渡り、カナダの牧場で1年間実習をされました。カナダの牧場も有名なブリーダーとの事で、200頭規模のつなぎ牛舎とさらに別にフリーの牛舎もあり搾乳や飼料給与などを行いました。日本に帰国する前に、カナダのトロントで開催されるロイヤル・ウインターフェアを訪れ、見聞を広めてカナダでの実習を終えました。帰国後は再度北海道の牧場に戻り約4年間を過ごされました。北海道での第13回全日本ホルスタイン共進会を経験し愛知県に戻る予定でしたが、口蹄疫や東日本大震災の影響で中止となり、北海道での実習を締めくくる事となりました。

飼養管理の特徴

実習先の北海道から戻られた当初の労働力は、ご家族3名（ご両親と本人）、外国人実習生3名、日本人従業員1名でしたが、ゆくゆくは日本人の従業員を雇用する事で牧場の飼養管理の技術を上げていきたいと考えています。現在の体制になりました。父親の康弘氏は、組合長としての業務もあるため、土日や夜の搾乳などは牛舎に入っていますが、殆どの業務はご本人と従業員の方々が



▲ パーラー

中心となつて飼養管理しています。飼料給与はTMRミキサーで行っており、粗飼料は輸入粗飼料を中心に、愛知県で購入できるエコフィード（ビール粕、豆腐粕、醤油粕など）を有効活用しコスト低減に取り組んでいます。最近はお騰が高騰している事からコーンサイレージの給与も開始し、新しい事にも積極的に取り組むようになりました。

搾乳は3回行っていますが、夜の搾乳はご両親も入り、生後間もない哺乳ロボットに入る前の子牛は、3回哺乳をしています。

また牛群検定も行っており、牛の行

動をモニタリングするUimotionを活用し、データを活用した個体管理にも力を入れています。

牛群改良の取り組み

北海道やカナダでの実習で改良にも興味を持った事もあり、現在は愛知県の改良同志会に所属し、共進会への出品も積極的に行っています。また、同志会において農業大学校での毛刈り講習や畜産総合センターでの牛の見方の研修会を行うなどの活動にも取り組んでいます。

また4戸の酪農家とシンジケート（SMR2シンジケート）の取り組みを行っています。その主な取り組みは、①共同購入した血統の良い雌牛からの採卵及び授精、②輸入精液を活用し共同購入した雌牛の後継牛の確保などです。シンジケートで保有している牛が11月13日に開催された愛知県ホルスタイン共進会において未経産の部でジュニアチャンピオンとなりました。

今後について

粗飼料が高騰している中、輸入粗飼料への依存度が高くなるのはリスクが大きいこともあり、北海道産の



▲ 哺乳ロボット群

チモシーやコーンサイレージの様な国産粗飼料の継続的な利用を考えています。現在は長野県から購入した国産粗飼料を給与していますが、来年は地元で作付けを行う取り組みに参加し、また自家保有圃場での作付けも検討しています。

また、以前は規模拡大を最優先としてきましたが、現在は省力化・効率化を図り効率的な経営を目指す考えとなっております。雌雄判別精液の活用により後継牛を確保した上で、和牛やF1子牛の生産による副収入の確保や、より少人数の業務体制の確立により経費を抑えるなどの取り組みを検討しています。また搾乳ロボットの活用による規模拡大な

どいろいろな方向性を考えておられます。

終わりに

今回は年末でお忙しい中、快く取材を引き受けて頂き有難うございました。愛知県は以前から名古屋港が近い事もあり輸入粗飼料の利用割合が高く、現在の飼料高騰の影響を大きく受けており県内では厳しい状況が続いています。

この厳しい状況を乗り越えるために、愛知県酪農農業協同組合や東海酪農協同組合連合会と連携して国産自給粗飼料の取り組み、エコフィードの活用など新しい事に取り組んでいます。また牛群検定やUimotionの利用などデータに基づいた飼養管理により、省力的で効率的な経営を率先して行い健全経営を目指す事で、その取り組みが地域に波及し、愛知県全体で良い方向に進んでいくと考えております。今後の地域の発展と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

有限会社鈴木牧場

→ <https://www.clochettefarm.com>



酪農部
発

全国農協乳業協会 「令和4年度営業向け交渉研修」の開催

酪農部が事務局を担っている全国農協乳業協会（会長：大久保克美 東毛酪農業協同組合 代表理事組合長）において、令和4年11月25日（金）に20事業者31名の参加をえて、「営業向け交渉研修」をオンライン形式で開催いたしました。

本研修会は、全国農協乳業協会会員営業職員向けに、バイヤーや取引先への交渉力を上げ、各社の販売力強化の一助となることを目的に今年度初めて開催いたしました。

研修は、「交渉を成功に導く3要素」「発想」「スキル」「ストーリー」について、講義とロールプレイングを通して学びました。参加者は管理職クラスから、経験年数の浅い若い職員まで幅広く受講していただきました。本研修では、令和4年11月の飲用乳価改定に伴う牛乳を中心とした製品価格改定があり、価格交渉の際の苦労話を互いに情報交換したり、今後更に改定がある際は、どのように交渉しようかロールプレイングの中で実践する姿も見られました。研修終了後の感想では、オンライン研修の難しさはありつつも、参加

者がそれぞれの置かれている現状に対して改善をしていきたい意欲ある声が多く聞かれ、営業ベテランの参加者は、「今まで感覚でやってきたことが、間違っていなかったとわかり自信になった」「部下も参加させてあげたかった」や、若手職員からは「自分の弱点が交渉のストーリー作成にあることは、理解していたので組み立て方等を学べてよかった」「先輩たちが普段交渉をする際に、実際に講義で教わった流れで話をしていたので、相手に伝わりやすくなることを理解した」等の声が聞かれました。

開催方法については、実開催の方がよいとの声もありましたが、時間的、距離的制約のある会員企業もある中で、平等に研修機会を得られるオンライン研修の利点を生かして、今後も会員職員のスキルアップの機会を提供していきたいと考えます。

来年度以降も、全国農協乳業協会では会員の負託にこたえるべく、様々な会議・研修を開催してまいります。
(A.Y)



▲ 受講風景

本研修会は、(一社)Jミルクの「国産牛乳乳製品高付加価値化事業」の助成を受けて実施しております。

名古屋
支所発

「第18回 知多牛枝肉共励会」が盛大に開催！

「第18回 知多牛枝肉共励会」が、令和4年12月9日(金)に大阪市中央卸売市場南港市場（大阪市住之江区南港）で盛大に開催されました。

今回出品した頭数は全部で55頭。交雑種牝11頭、交雑種去勢38頭、和牛牝1頭、和牛去勢5頭であり、今回の共励会は交雑種で競われました。

交雑種全体の結果は平均枝肉重量が牝546.1kg、去勢が573.9kgでkg単価は牝が1,720円、去勢が1,615円でした。格付はB等級以上率は71.3%、全ての枝肉が3等級以上、また4等級以上は61.2%と高い水準の共励会でした。

血統では「福之姫」「幸忠栄」「愛之国」の存在感を示していました。

今回の共励会を制し、最優秀賞となったのは榊原正人さん（半田市）出品の交雑種去勢26.05ヶ月齢「幸忠栄」15号牛で枝肉重量は563.8kg、格付A5、BMS（脂肪交雑 赤身の肉にどれだけサシ（霜降り）がはいっているのか）No.10、BCS（肉色及び光沢）No.3の成績を収めました。kg単価は2,712円でした。

また最優秀賞にも引けを取らない程の成績を上げた交雑種牝26.08ヶ月齢「福之姫」1号の出品牛が優秀賞1席に輝きました。

コロナ禍により表彰式は執り行いませんでしたが、褒賞として大阪市長賞、愛知県知事賞などが贈られました。(S.M)



▲ 審査

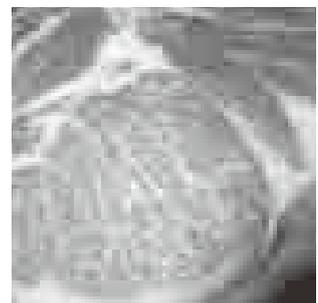


▲ 購買者への御礼の品々

令和4年12月9日(金)上場 第18回 知多牛枝肉共励会 最優秀賞

肉牛評価表

BMS	BCS	肉付	モモ	バラ		カブリ		内面	肩張	備考
				厚	サシ	厚	サシ			
10	3	△○	△○	○	○	△	○	△	△○	芯大、卒なし、雷サシ



福岡
支所発九州・沖縄各県酪農青年女性団体が
「酪農経営継続に関する要望書」提出

九州・沖縄各県の酪農青年女性団体は令和4年12月5日(月)、九州生乳販売農業協同組合連合会(中村隆馬代表理事会長)、九州酪農政治連盟協議会(宮本貞治郎会長)に「酪農経営継続に関する要望書」を提出しました。要望書の提出は5月に続き2度目です。

11月の乳価改定や様々な政策対応が実施されていますが、生産コストの上昇や副産物価格の下落を補える水準には至っておらず、九州・沖縄の酪農家廃業戸数は昨年度の約2倍に上り再生産可能な経営環境の確立が喫緊の課題であることを受けて、九州酪農青女の

中村委員長は「来年度に向けて酪農家の不安を解消するため九州生乳販連、九州酪政連の力を借りて一日も早い酪農経営環境の改善に繋げるために要望書を提出させていただきます。」と窮状を訴えました。

意見交換では、九州生乳販連の中村会長が九州・沖縄の生産抑制への取組に謝意を示し、「今の酪農経営環境が良いとは思っていません。経営を立て直すには需給環境の改善が必要であり一緒に取組んでいきたい。」と応じ、九州酪政連の宮本会長は最近の要請活動について報告しました。(T.S)

要望書内容

1. 乳価改定への支援
令和5年度に向けた再生産可能な乳価改定の実現
2. 酪農生産基盤維持・強化への支援
離農に歯止めをかけ将来に向け夢をもって営農できる酪農支援策の実現
3. 消費者への理解醸成対策
生産コスト上昇分の適正な価格転嫁に関する酪農理解醸成の促進



▲九州・沖縄の各県酪農青女代表者が参加

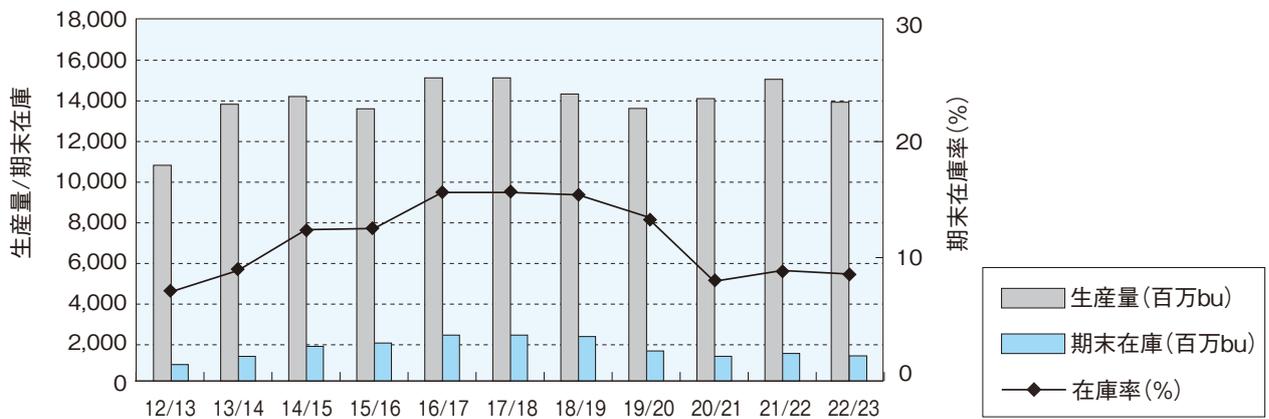


▲九州酪農青女の中村委員長(右)より九州生乳販連の中村会長(左)に要望書手交

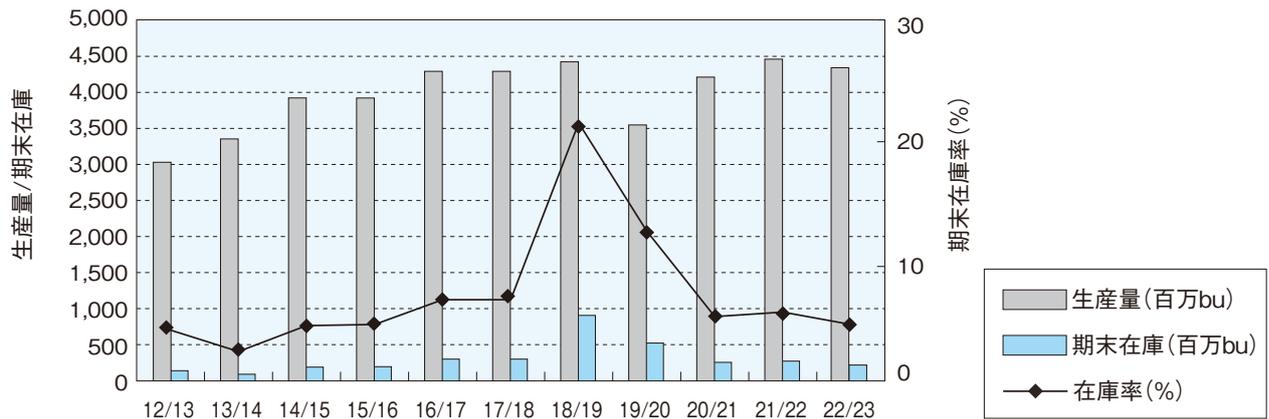


		21/22年産	22/23年産
11月9日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積(百万エーカー)	93.3	88.6
	単 収(ブッシェル/エーカー)	176.7	172.3
	生 産 量(ブッシェル)	150億7,400万	139億3,000万
	需 要 量(ブッシェル)	149億5,600万	141億
	期末在庫(ブッシェル)	13億7,700万	12億5,700万
	在 庫 率	9.21%	8.91%
	トウモロコシ 相場動向	シカゴ相場は横ばいからやや軟調に推移していたが、ウクライナ情勢の激化を受けて再び反発するなど方向感ない相場となっている。今回のUSDAでは大きなアップデートはなかったが、アルゼンチンでは引き続き高温乾燥が続いており生産量の減少が懸念される。今後米国はクリスマスシーズンに入り、徐々にマーケットの動きも鈍くなるため、次回のUSDAまでは小幅な相場展開になる見込み。	
大豆粕相場動向	中国のゼロコロナ政策緩和期待とアルゼンチン産大豆の高温乾燥懸念により、シカゴ大豆粕相場は急騰している。国産は国内搾油メーカーは季節要因により搾油量が一服し、潤沢な油脂在庫を受け搾油量が減少することが見込まれており、また、輸入大豆粕の急騰を受け、強気の相場となっている。		
糟糖類	【一般フスマ】 7月以降小麦粉挽砕量は前年割れで推移しており、10-12月も前年割れで推移する見通しで、ふすまの発生量も限定的となることから、年明け以降も引き続き供給制限となる。		
	【グルテンフィード】 ビールやジュース類の生産が値上げの反動で急減し、8月以降、主製品の販売量も急減していることや、ふすまの代替による使用量増加に伴い、国産グルテンフィードは非常に逼迫している。不足分は中国産で賄っているものの、発生は限定的となっており現地価格は高騰している。		
海上運賃	11月のフレート市況は、月初は軟調に推移したが、月末にかけて徐々に相場が上昇した。中国のゼロコロナ政策の規制緩和が加速し徐々にヒト・モノの移動が円滑化へ向かう期待が強まったことで、低迷が際立っていた鉄鋼需要も回復してきている。また穀物の荷動きについても、ブラジル産トウモロコシの豊作により輸出ペースが前年より倍以上で進んでいることから海上運賃は引き続き強含む見込み。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移

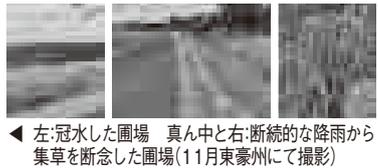




輸入粗飼料の情勢

令和4年12月

北米コンテナ船情勢	<p>【北米コンテナ船情勢】 昨年の12月はロサンゼルス港及びロングビーチ港で80隻超のコンテナ本船が沖合に滞船したことで、日本向けの定期便が減便され、1か月以上のスケジュールの遅延が恒常化し輸入牧草の流通は大きく乱れましたが、今年は沖合での滞船が解消され、定期便も通常通り運航されています。解消の主な理由は、5月から始まった北米西海岸港湾労使交渉によるストライキ及び港湾の混雑を懸念し、米国小売業者を中心に西海岸から東海岸にコンテナ貨物取扱を移行したことや、米国内のインフレから消費が落ち込みコンテナ貨物取扱量が減少したことが考えられています。労使交渉は現在も交渉中ですが、大きな進展は報じられておらず、大規模な争議行動は行われていません。</p>
ビートパルプ	<p>【米国産】 産地ではインフレによる人件費の高騰で製糖作業向けの人員確保が難しく、また製品や原料を運搬するトラックの不足からビートパルプの生産が例年より若干遅れています。22年産は生育時期の早晩の影響もあり単収が減少していることから、現在、原料となるビートをできるだけ確保するため、圃場が凍結する前に収穫すべく、急ピッチで作業が進められています。</p>
アルファルファ	<p>【ワシントン州】 主産地であるワシントン州では22年産の収穫が完了しました。22年産収穫を振り返ると、1番刈は春先の冷涼な気候と、収穫直前の6月上旬まで雨天や強風が頻発したことにより、例年に比べ収穫開始が3週間程度遅れました。さらには収穫中も断続的な降雨に見舞われたため、刈遅れや雨当たり品の発生が中心となり、上・中級品の発生は限定的となりました。しかしながら、米国内の酪農家は21年産の繰り越し在庫がなかったため、雨当たり品でも旺盛な買付けを行い産地相場の上昇を誘発しました。2番刈については生育期間中の気温が上がり成分値は低めとなり、夜露の発生が少なかったため、やや乾燥気味な品質となりました。収穫期は晴れた日が続き雨当たり品の発生は少なく、中級品以上の発生が中心となりました。3番刈・4番刈は収穫期の散発的な降雨の影響で半分近くが降雨被害にあいました。また、同州や近隣州で発生した山火の煙も影響し、通常よりも乾燥に時間を要し、乾燥気味のものも多く、下級品中心の発生となりました。22年産は1番刈の収穫作業の遅れを、シーズン終盤まで解消できなかったため、例年行われる4番刈の収穫を断念する圃場も多く見られ、生産量は昨年と比べてやや減少しました。産地相場については、発生量の少なかった上級品を内需及び中国向けに旺盛に買付されたこともあり、過去にないような高値の相場形成となりました。</p> <p>【オレゴン州】 オレゴン州南部クラマスフォールズでは22年産の生産を終えています。産地ではワシントン州同様に生育期の気候が冷涼で生育が遅かったことに加え、収穫開始直前に降雨があったため、例年より2週間程度遅れ、1番刈の収穫が開始されました。その後は天候も安定したことから2週間ほどで1番刈の収穫作業は終了しました。一部収穫作業中に降雨被害にあった圃場もありましたが、多くの圃場で降雨被害を避けられたため、上級品中心の発生となりました。2番刈・3番刈については収穫作業期間中の天候が不安定であったことから、収穫されたものの一部で雨当たりの被害が発生しました。同州中部クリスマスバレーでも22年産の生産を終えています。クリスマスフォールズと同様に1番刈では上級品中心の発生となりましたが、2番・3番刈は収穫期間中に降雨に見舞われたこともあり、雨当たり品の被害が発生しました。産地相場は現在も米国内酪農家からの上級品アルファルファの需要は衰えず堅調に推移しています。</p> <p>【カリフォルニア州】 カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、夏の暑さが本格化する前に収穫された1番刈から3番刈は好天に恵まれこともあり、成分も高く上級品中心の発生となりました。夏季に入ってから気温上昇に伴い成分値は下がり始め、低成分且つ過乾燥なサマーヘイの発生が中心となりました。秋に近づくにつれ気温が下がる9～10月は例年、成分が回復しますが、22年産は季節風の影響により湿度も高く、残暑が影響し低成分の下級品の発生が多くなりました。産地相場については年間を通じ上級品に対する引き合いが近隣の酪農家はじめ、中東、中国より続いているため、高値で推移しています。</p>
チモシー	<p>【米国産】 主産地である、ワシントン州ワシントンバレー及び、エレンズバークでは22年産の生産を終了しました。22年産はアルファルファ1番刈の生産と一斉に収穫期に好天に恵まれたため、1番刈は上級品中心の発生となり、中・低級品の発生は限定的となりました。1番刈の収穫が終わると多くの生産者はトウモロコシや豆類といった換金性に優れる穀物へ転作したことや、夏季の暑さの影響で単収となり、2番刈の収量は例年の半分程度となりました。2番刈の品質は中級品の発生が主体で上級品の発生は限定的となりました。産地相場が高騰したことにより日本・韓国向けの需要が顕著に減少しており、工場の稼働率の維持に苦慮する一部の輸出業者は、上級品を中心に値下げのアナウンスを開始しています。</p> <p>【カナダ産】 主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区、南部レスブリッジ地区ともに22年産の生産を終えています。1番刈の品質は中級品から上級品、2番刈の品質は低級品から中級品が中心の発生となっています。産地では降雪が続いており、積雪や雪道の影響で出荷の遅れが増加しており、今後もスケジュールには注視が必要です。</p>
スーダングラス	<p>主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは22年産の生産が完了しました。22年の1番刈は春先の気温が例年より低く、収穫期においては湿度も低く好天に恵まれたため、色目は鮮やかな緑色で葉付き良い柔らかな上級品から中級品が多く生産されました。産地相場については、人件費、肥料代、輸送代など生産コストの大幅な上昇に加えて、灌漑の取水制限による生産減少が危惧され、一時市場は混乱し相場の上昇を誘発しました。夏以降、収穫された中・低級品については収穫中、複数回降雨被害がありました。また早晩の影響により自給飼料不足に直面した近隣地域の肥育生産者及び、輸出業者の間で旺盛に買付が行われました。現在、産地では日本向けの需要が低下し、上級品を中心に未成約の在庫を保有する輸出業者が散見されています。</p>
クレイグラス	<p>クレイグラスは全酪連の登録商標です。 主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは22年産の生産を終えています。22年産のクレイグラスの需要は高騰するアルファルファのタンパク源代替として、今まであまり見られなかった米国内酪農家からの引き合いが強く、内需が産地相場を牽引し、昨年比で大幅な値上がりとなりました。22年産は、生育期となる春先が例年より冷涼であったことから、序盤に収穫されたものは葉付きが良く柔らかい品質のものが見られましたが、シーズンが進むにつれ、多少茎が固くとも、買付を続ける米国内需向けの生産が増え、生産者も単収増を目指したため、例年以上に全体的に茎が堅い品質が多く生産されました。シーズン終盤に入ると9月～10月にかけて降雨被害を受けるなど不安定な天候が続き、降雨を避けるため適期を逃した圃場や、高温多湿の影響で茶葉が多く混入した品質の低級品が発生しました。</p>
パミューダ	<p>22年産は米国内で住宅用芝の需要が好調であったことから、種子価格も高値で推移し、種子の生産が例年より増加しました。これに伴い、パミューダヘイの生産量が減少しました。パミューダヘイの生産量が少ないなか、色目なき良い上級品を中心に産地相場は米国内の馬糧やペット向けの買付が旺盛なため、高値で推移しています。</p>
オーツヘイ	<p>【東豪州産】 東豪州では22年産オーツヘイの収穫期に「ラニーニャ現象」及び「負のインド洋ダイポールモード」が直面し記録的な大雨に見舞われました。南東部に位置するビクトリア州では11月においても月間平均降雨量の約2倍の降雨が記録される等、異常な多雨となり、同地域にあるラクラン川が氾濫し、周辺の都市部や農地の広い範囲で洪水が発生しました。この洪水により大規模な停電や道路の寸断が発生し、オーツヘイにおいても出荷スケジュールの遅延が発生しました。22年産は10月に多くの圃場が収穫の適期を迎えましたが、断続的な降雨の影響で作業が開始できず、雨あたりや刈遅れが主となりました。その後11月まで天候の回復はなく、収穫を断念する圃場も散見されています。22年産東豪州産の品質は低級品中心の発生となり、生産量も例年と比べて大きく減少する可能性が出てきています。産地周辺の酪農家においても、自給飼料が水浸しとなったため、放牧草をはじめとする自給飼料不足の懸念があるため、低級品でも需要は旺盛で産地相場は堅調に推移しています。</p>
オーツヘイ	<p>【南豪州産】 22年産の収穫作業は終盤を迎えています。南豪州でも収穫期に悪天候が続き、11月中旬には強い雷雨による大規模な停電が都市部で発生しました。22年産は産地においても断続的な降雨があり、予乾中であったオーツヘイの多くが雨当たりの被害を受け、また気温も低かったことから、見た目の劣化や成分値の悪化に繋がりました。中旬以降は天候が回復したため、収穫された圃場も一部ありましたが、適期を逃した刈遅れとなり、成分値は低めとなる見込みです。このような状況により、南豪州でも生産量の減少が予想され、特に上級品の発生は限定的となる見込みです。</p>
オーツヘイ	<p>【西豪州産】 豪州の22年産は順調で、収穫作業は終盤を迎えています。生育期、収穫期ともに天候に恵まれ、収量も平年以上となり上級品から中級品中心の発生となる見込みです。東豪州と南豪州の22年産の作況から、今後のオーツヘイの出荷は西豪州に集中すると予想されています。西豪州に集中することで、製造スケジュールは慢性的に逼迫した状況が続き、スケジュールの遅れや在庫の不足等の懸念もあり、注視していく必要があります。また西豪州の主要港フリーマントル港では引き続き、船腹は逼迫しており、今後、年末年始の船積混雑も合わせて出荷状況の悪化が懸念されます。</p>



◀左:冠水した圃場 真ん中と右:断続的な降雨から集草を断念した圃場(11月東豪州にて撮影)



◀左:複数回の降雨被害にあった低級品、右:降雨被害にあった圃場(11月南豪州にて撮影)



日本酪農
政治連盟

酪政連活動報告

令和4年10月～12月

10/5	三役会議 (於 全酪連役員会議室)	10/28	中央畜産会・畜産ネットワークは農林水産省・野村哲郎大臣と面会し、佐藤哲委員長は飼料価格高騰対策の機動的継続を要請する。(於 農林水産省)
10/24	三役会議 (於 全酪連役員会議室)	11/1	自由民主党税制調査会に坂本保幹事長が出席し、酪農関係の負担軽減を要請する。(於 自由民主党本部会議室)
11/30	<p>自由民主党は酪政会を開催し、104名（代理含む）が出席する。日本酪農政治連盟からは三役・顧問はじめ各県委員の計75名が参加する。 (於 ホテルルポール麹町)</p>  <p style="text-align: center;">▲ 酪政会</p>		
	<p>中央常任委員会 (於 砂防会館) 中央委員会 (於 ホテルルポール麹町)</p>		
12/1	<p>自由民主党 畜産・酪農対策委員会 (於 自由民主党本部会議室) * 佐藤哲委員長は、生産基盤維持への政策支援を加えた補給金単価の引き上げを要請する。</p>  <p style="text-align: center;">▲ 畜酪委員会</p>		

価格状況 ▲……強含み ▲……やや強含み →……横這い ▼……やや弱含み ▼……弱含み

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	15~25	→	札幌管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で99.5%、累計で102.3%、苫小牧管内月計で94.7%、累計で96.8%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、3月下旬から4月中旬分娩が中心となっております。12月管内市場は、春分娩も上場したため、強含みに推移いたしました。1月も春分娩が主流になっていくため、庭先購買に関しましてやや強含みに推移すると見込まれます。腹別としては、雌雄選別腹は資源の少なさに反して、需要はかなり高いためF1腹並みの価格で取引されると見込んでおります。出品頭数は少ないですが、初妊牛・育成牛ともに良質な牛が多い地域ですので、相場が落ち着いているこの時期での導入をお勧めいたします。
	初妊牛	43~53	▲	
	経産牛	20~30	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	20~30	▲	根釧管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で92.8%、累計で97.6%、中標津管内月計で93.7%、累計で98.5%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、3月下旬から4月中旬分娩が中心となっております。雌雄選別腹の需要が高まっておりますが、資源の少なから、F1腹との価格差が縮まってきている傾向にあります。春分娩の需要が見込まれるため、相場はやや強含みに推移すると予測されます。道外のメガ、ギガファーム導入次第では、更に引き合いが強くなることも予測されます。経産牛は横這いで推移するものと見込まれます。
	初妊牛	46~56	▲	
	経産牛	28~38	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	20~30	→	帯広管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で94.8%、累計で100.0%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、3月下旬から4月中旬分娩が中心となっております。初妊牛においては、春分娩で資源が少なくなってくる中、道内ギガファームの導入も重なってきているため、引き合いがかなり強くなるものと見込まれます。そのため庭先購買価格といたしまして、やや強含みで推移すると見込まれます。腹別といたしましては、雌雄選別腹の資源が少なく、需要も高いためF1腹との価格差は縮まってきております。経産牛に関しましては、資源は豊富にあるため春分娩でも、横這いに推移するものと予想されます。
	初妊牛	48~58	▲	
	経産牛	23~33	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	15~25	→	道北管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で95.1%、累計で99.4%、北見管内月計で92.8%、累計で98.5%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、3月下旬から4月中旬分娩が中心となっております。初妊牛においては、雌雄選別腹の管内需要が少し高まっており、F1腹との価格差が縮まってきている傾向にあります。資源につきましても、前年並みに推移しており、春分娩牛も出てくることから、庭先購買価格といたしましては横這いで推移するものと見込まれます。育成牛・経産牛に関しましては、横這いで推移すると予想されます。
	初妊牛	40~50	→	
	経産牛	22~33	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	20~30	→	新年あけましておめでとうございます。本年も都府県への搾乳用素牛供給につきまして、札幌支所職員一丸となり取り組んでまいりますのでどうぞ宜しくお願い致します。道内の12月中旬までの生乳生産量前年比は94.4%、累計で99.1%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしましては、春分娩中心となりやや強含みを見込んでおります。各地域では、雌雄選別腹資源の減少により腹別での価格差もなくなっている状況です。また、今後の酪農情勢次第では、相場が大きく変動する可能性がありますので、情勢に注視していきたいと思っております。導入を予定されている方はぜひ、お近くの弊会担当者へご一報頂き、ご希望のタイプや相場のご相談をして頂き、お早めのご注文を上げて頂きますよう宜しくお願い致します。
	初妊牛	46~56	▲	
	経産牛	23~33	→	

今月の表紙



今月の表紙は「第12回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「よいしょ！」(北海道 荻野和美氏 撮影)です。

令和5年1月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 1月号 No.688

●編集・発行人 工藤文彦

●発行 全国酪農協同組合連合会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館

TEL 03-5931-8003 <https://www.zenrakuren.or.jp/>

編集後記

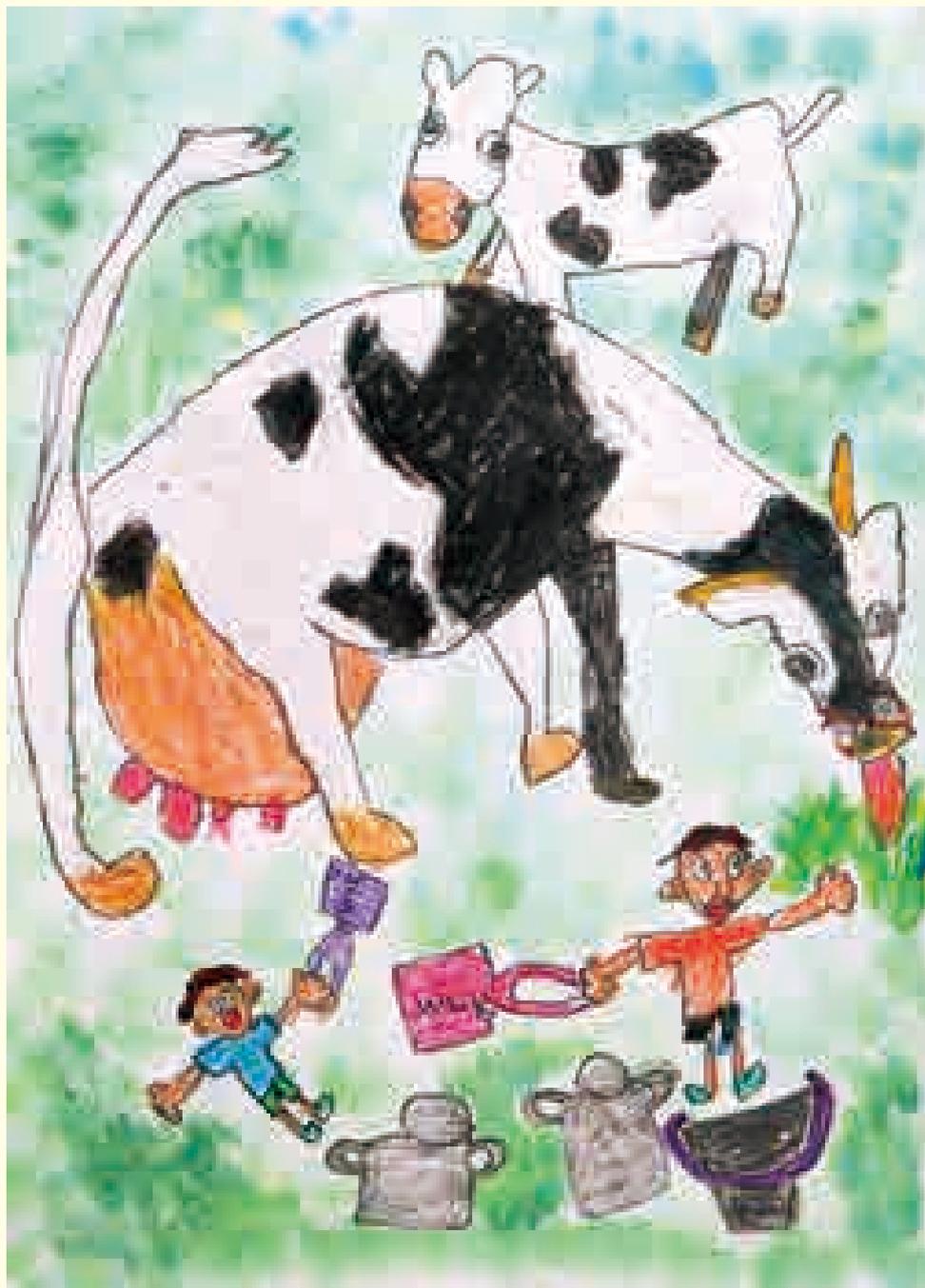
- あけましておめでとうございます。皆様には、晴れやかに新春を迎えられたこと、お慶び申し上げます。2023年も皆様にご愛読いただける内容で全酪連会報をお届けできるよう努めてまいります。本年もよろしくお願ひいたします。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

今月の

らくらくのうこどもギャラリー

入賞作品紹介



うしさんに かんぱい!

中島村立吉子川小学校 1年 (東北) 仁科 陽翔

今月の入賞作品は…

中島村立吉子川小学校 1年 (東北) の仁科陽翔さんの作品です。

ペン、水彩、クレヨンと様々な画材を駆使して描いた力作です。ミルクの入ったカップを手に楽しそうです。踊るような構図と生き生きとした表情の描写、画材による表現の面白さ。全てに美的センスを感じさせる作品です。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第48回らくのうこどもギャラリー」で全国205点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議